5　逆引き計算と逆割り計算

「A－B」を計算するとき、通常は、

A ⊖ B ⊜

と打ちます。では、「12－2×3」を計算するときは、どのように電卓を操作すればよいでしょうか？

「2×3」を先に計算することになるので、通常の計算方法だとメモをしないと計算することができません。そのようなときは、「逆引き計算」を使用します。

逆引き計算を使用することで、後から入力した数値から、前に入力した数値を引くことができます。

具体的には、

B ⊖⊖ A ⊜

と打ちます。先ほどの計算であれば、

2 ⊗ 3 ⊖⊖ 12 ⊜

となります。すると、後から入力した数から、前に入力した数を逆に引くことができます。

また、同様に、⊘⊘ と入力することで、後から入力した数値から、前に入力した数値を割ることができます。

例えば、「81÷（6＋3）」を計算する場合は、

6 ⊕ 3 ⊘⊘ 81 ⊜

となります。

なお、この逆引き計算と逆割り計算は、後述する「定数（じょうすう）計算」を単独の引き算と割り算で利用したものです。「定数計算」モードになると、電卓に「K」が表示されます。

例 題 5

次の計算を電卓を使っておこない、解を求めましょう。

⑴　8－2×1＝

⑵　35－4×7÷2＝

⑶　25＋46－2×13＝

⑷　16÷（12－8）＝

		計算結果
⑴	2 ⊠ 1 ⊖⊖	
	8 ⊜	6
⑵	4 ⊠ 7 ⊘ 2 ⊖⊖	
	35 ⊜	21
⑶	2 ⊠ 13 ⊖⊖	
	46 ⊜	(20)
	⊕ 25 ⊜	45
⑷	12 ⊖ 8 ⊘⊘	
	16 ⊜	4

6 定数計算

同じ数を何度も足したり割ったりすることがあります。例えば、

B＋A＝
C＋A＝
D＋A＝
E＋A＝

このような場合です。A を何度も別の数に足しています。もちろん、毎回「＋A」を打ってもよいのですが、以下のように繰り返す数字が大きい場合、毎回同じ数字を打つのは時間がかかりますし、手数が増えるので誤入力の元になります。

12＋5,568,132＝
23＋5,568,132＝
34＋5,568,132＝
45＋5,568,132＝

そのようなときは、「定数計算」を使用します。繰り返し同じ計算をすることを、定数計算と言います。「定数計算」モードになると、電卓に「K」が表示されます。
具体的には、

A ⊕⊕ B ⊜
C ⊜
D ⊜
E ⊜

と打ちます。先ほどの計算であれば、

5,568,132 ⊕⊕ 12 ⊜
23 ⊜
34 ⊜
45 ⊜

となります。以上の例は足し算の場合ですが、すべての四則計算で使うことができます。定数計算では、⊜ などで結果を表示させる必要があることに注意してください。

9 ⊖⊖ 3 ⊕ 1 ⊜
では誤りになります。

9 ⊖⊖ 3 ⊜
⊕ 1 ⊜